

なお、昭和48年度以降のスポーツ教室の開設状況は表17-1のとおりである。

表17-1 スポーツ教室の開設状況

年度	コ ー ス 名	開 設 期 日	対 象 者	募集人員
48	バレーボール	8月9日～12日 8月17日～19日	家庭の主婦	30
	水 泳		家庭の主婦	30
49	バスケット	8月13日～22日	小学校3年以上の男女	30
	体操(健康と体力づくり)	8月7日～16日	家庭の主婦	30
50	パトミントン	8月9日～12日、8月20日～22日	家庭の主婦	30
	なわとび	8月20日～25日、9月～11月までの毎週日曜日	千葉市内在住の主婦	30
51	親子水泳教室	8月20日～27日	千葉市近辺の主婦と小学生以上の児童	30
	水 泳	8月11日～17日	小学生男女	30
52	ミニバスケット	8月14日～18日、8月23日～27日	小学校4年以上の男女	30
	フォークダンス・民踊	9月5日～10月24日までの毎週日曜日	一般男女	30
53	水 泳	8月12日～18日	小学生男女	60
	テニス教室(硬式)	11月13日～12月18日までの毎週日曜日	女 性	30
54	剣道教室	8月4日～10日	小学校3年～中学校3年	30
	硬式テニス教室	8月7日～13日	家庭婦人	30
54	水泳教室	8月17日～23日	小学校3年～6年	30
	剣道教室	8月3日～6日、8月10日～12日	小、中、高、一般	30
	テニス教室(硬式)	8月10日～16日	家庭婦人	30
	水泳教室	8月18日～24日	小学校3年～6年	30

## 第2節 課 外 活 動

### 1. 大学歌、学旗の制定

昭和34年、創立10周年を迎えたことを機に、大学歌、学旗制定の議が起こり、創立10周年記念会においてその予備調査が進められた。同年4月、制定のための委員会が設けられた。

数次にわたる審議の末、制定委員会は、大学歌については、作詞者として勝承夫氏

# 千葉大学歌

勝承夫 作詞  
平井康三郎 作曲

(一)

若い空 若い地

房総の 風は歌うよ

大洋の意気 寄せ来るところ

内海の和気ただようところ

みよ 青春の 花のよろこび

千葉大学 心のふるさと

(二)

晴れわたる 満ちわたる

新鮮な 汐の香りよ

向学の窓 清らかに高く

探究の庭 はてなく 広く

みよ 燦然と叡智あつまる

千葉大学 文化のさきがけ

(三)

若い雲 若い鳥

黎明の 星は光るよ

躍進の道 はるかにひらけ

純情の友 楽しく競う

みよ 永遠の聖火燃えたつ

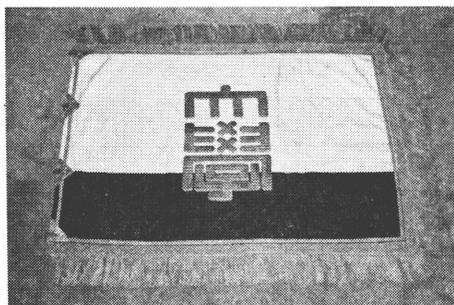
千葉大学 栄あるまなびや



## 第2節 課外活動

作曲者として平井康三郎氏に委嘱を決定、また学旗のデザインについては、工学部山崎幸雄教授に協力方を要請した。

昭和35年1月、勝承夫氏、平井康三郎氏による大学歌の楽譜が出来上り公開された。また学旗も、山崎教授の手を経て、白木屋に製作が委託され、同年2



学 旗

月に出来上った。2月の評議会は、これらの大学歌、学旗を正式に制定した。

なお、学旗の制定に際して、制定委員会においては、学旗の威厳、重厚性を尊重することになり、昭和24年10月すでに制定されていた千葉大学バッジの色彩を採用し、ガーネット（暗紅色）は情熱を、ホワイト（白色）は純粹さを表現するものとして染分けられ、ガーネット5、ホワイト9の比率となっている。

また、昭和35年9月、大学歌の管弦楽伴奏楽譜が、寺内昭講師の作曲により完成した。

## 2. 西千葉地区の課外活動施設

文理学部の小中台地区から西千葉地区への移転は昭和38年であるが、当時体育施設としては、同年に整備された陸上競技場、サッカー場、野球場等は存在していたが、体育館、武道場は未だなく、東京大学生産技術研究所から所属替えとなった古い木造建物を応急の屋内施設に充てていた。

以下西千葉地区に整備された体育施設をみると、表17-2のとおりである。

表17-2 西千葉地区体育施設

施 設	設置年度	内 容
陸 上 競 技 場	38	13,786m <sup>2</sup>
サ ッ カ ー 場	38	12,000
テ ニ ス コ ー ト	38	6 面
バ レ ー コ ー ト	38	4 面

野 球 場	38		18,500m <sup>2</sup>
第 3 合 同 部 室	39	プ レ ハ ブ	99
プ ー ル	39	9 コ ー ス	25m
体 育 館	42	鉄筋コンクリート造2階建	2,583m <sup>2</sup>
自 動 車 部 車 庫	43	プレハブ平屋建	124
武 道 場	47	鉄筋コンクリート造平屋建	976
弓 道 場	49	鉄骨造平屋建 8人立	112
音 楽 共 同 練 習 A 棟	51	ブロック造平屋建	100
B 棟	51	鉄筋コンクリート造平屋建	100
体 育 管 理 合 宿 施 設	52	鉄骨造2階建	119

以上のほか、昭和52年には、江戸川にボート艇庫（鉄骨造平家建195m<sup>2</sup>）が建設された。このように逐次整備をみているが、一方、課外活動団体（サークル）の部室の現状は問題点を多く抱えている。部室は現在いずれも木造危険建物である第1、第2合同部室および卓球場・合宿所の3棟が主体であり、いずれ何らかの処置を講じなければならない段階に来ている。

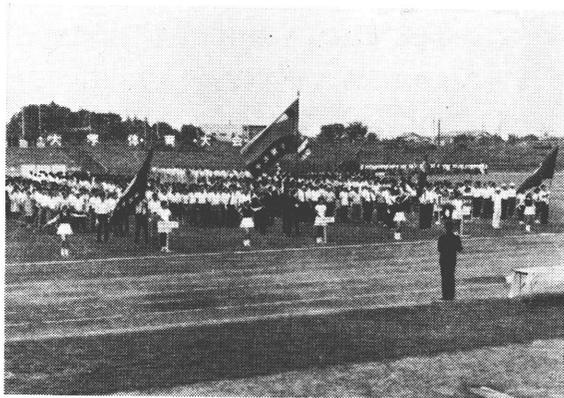
#### 体育会の創設

昭和49年10月、運動系サークル協議会の長田委員長（剣道部）を中心としたグループから、成文化した規約のもとに組織された体育会を設立しようとする話が持ち上がった。そして準備委員会のもとで半年にわたって規約案が検討された。この規約案が正式に代表者会議を通過するまでさらに10か月を要した。昭和51年2月、千葉大学体育会は発足した。

#### 関東甲信越地区大学体育大会

体育系サークルが数多く参加する夏の主要行事としてこの大会がある。

昭和27年、茨城大学の当番で始まったこの大会に、千葉大学は毎回参加し、昭和53年には第27回を迎えた。この間、千葉大学は、第5回（昭和31年）、第14回（40年）、第24回（50年）に



第22回関東甲信越地区大学体育大会(昭和48年新潟大学)

## 第2節 課外活動

それぞれ当番大学を引受け、千葉市を中心に県下の施設を使ってこの大会を開催した。

### 3. 学生自治会

昭和24年5月、新制千葉大学は5学部をもって発足したが、当初は自治組織はおろか1サークルもなかったが、次々文芸部、社会科学研究会等のサークルが結成され、また全学統一組織を要望する声が学生間にあった。

その頃、全学連（全国学生自治会総連合）が結成された。

9月には、大学は学生の要望に対処するため、学生の組織作成にとりかかった。先ず規約起草委員を各学部学生の中から任命した。起草委員会は規約草案を作り、学生大会召集の告示の後、第1回学生大会が行われた。

大会では、学生から「草案に、構成は全学組織となっているが、まだ出来ていない専門課程各学部の自治会をしぼるのは不当である。四街道(教育学部分校)、松戸(工、園)など遠隔地と一緒に単一組織を作れば、委員会の成立も困難だし、機動性も失われる。それより先ず一般教養学生の自治会を作るべきである」との意見が出された。そして名称を学生会にし、自治会としないのはなぜかとの質問に「自治会という名称は不適當」と大学側「我々は自治権が欲しい」と学生側との対立となったが遂に「この草案を否決し、一般教養学生自治会を急速に結成することを確認する」旨の緊急決議が多数で可決された。

このため、規約草案は学生側で否定される結果となった。学生側では新起草委員の手によって草案がまとめられ、12月の学生大会において、「千葉大学一般教養学生自治会」の発足となった。

しかし自治会活動は一定のワクの外に出ることもないまま全学的なものにならなかった。

昭和27年大学は別の学生組織をつくろうとした。

大学は、学生、大学関係者で構成する学友会結成準備委員会を開き、組織、会則を検討したうえ、その構想を発表した。その内容は、学生、教職員を構成員とする、教官と学生との交流、学生相互の親睦をはかる組織を意図したものであった。しかし、学生の中からその構想に批判が起り、学友会反対運動、自治会再建運動に移っていった。

自治会再建運動準備会の主導で、クラス代表、厚生委員会、学生課の3者構成の協

議会在設けられ、全学自治会結成への模索が続けられたが成功せず、一時運動は停滞した。

その後、学生代表と大学側との度重なる話合いの結果、昭和27年末に、千葉大学稲毛地区学生会が結成された。

昭和33年に至り、学生会執行部は、自治会設立を決議、代議員の承認を経て、全学投票に入り自治会の発足を試みたが、大学は承認せず不成功に終わった。

昭和35年における各学部の自治会活動の状況は次のとおりで、自治会の名称、組織所属サークルの順に列記すると、

1. 文理学部学生会 代議員会  
文化部会26サークル 運動部会28サークル
2. 医学部自治会 常任委員会、厚生部、新聞部、文化部16サークル、運動部10サークル
3. 薬学部学友会 委員会、クラス会、部会（文化部、運動部は未設置）
4. 工学部工友会 総務部、クラス部会、文化部会4サークル、運動部会8サークル
5. 園芸学部自治会 学部大会、クラス委員会、クラス大会、連絡会議、文化部6サークル、運動部4サークル
6. 教育学部自治会 学生大会、自治委員会、常任委員会、文化部、運動部
7. 教育学部分校自治会 委員会、文化部5サークル、運動部2サークル
8. 一般教養課程自治会（稲毛地区学生自治会）代議員会、自治委員会、執行委員会、文化部協議会34サークル、運動部協議会22サークル、合同委員会

昭和36年に至り、大学側と学生代議員との話合いを経て、千葉大学教養課程自治会発足の運びとなった。このため、従来の千葉大学稲毛地区学生会は発展的解消をみた。

昭和53年現在の各学部、教養部の自治会と所属サークルの現況をみると、

- |                       |     |        |         |        |
|-----------------------|-----|--------|---------|--------|
| 1. 人文学部（自治会はおかれていない。） | 文化部 | 1サークル  |         |        |
| 2. 教育学部自治会            | 文化部 | 12サークル |         |        |
| 3. 医学部自治会             | 文化部 | 14サークル | 運動系サークル | 18サークル |
| 4. 理学部自治会             | 文化部 | 1サークル  |         |        |
| 5. 薬学部学友会             | 文化部 | 4サークル  | 運動系サークル | 3サークル  |
| 6. 工学部工友会             | 文化部 | 3サークル  |         |        |
| 7. 園芸学部自治会            | 文化部 | 5サークル  | 運動系サークル | 13サークル |

## 第2節 課外活動

8. 看護学部（自治会はおかれていない。）
9. 教養課程自治会

### 4. 学生のサークル活動

昭和53年における西千葉地区のサークルは次のとおりである。これは届出がなされ公認されたものである。

#### 文化系サークル（79サークル）

昭和54年3月1日現在

合唱団、管弦楽団、ギター部、軽音楽部、マンドリンクラブ、フォークソング愛好会（ZOO）  
ウボイコール、カントリー&ウエスタン研究会、ポップス研究会、ジャズ研究会、TADPOLE  
（おたまじゃくし）、カレントフォーク、能楽研究会、竹葉会、道しるべ、農村問題研究会、植  
物同好会、自然保護研究会、日本文化研究会、無線研究会、シネマ研究会、放送研究会、写真  
部、肖像写真研究会、医用電子工学研究会、原理研究会、U. S. O. 研究会、航空宇宙研究会、  
葉法会、星を見る会、映画研究会、ドイツ文化研究会、鉄道研究会、国際経営学研究会、カ  
ラ写真をつくる会、電子計算機研究会、企画構成研究会、仏教哲学研究会、唯物論研究会、絵  
画同好会、文芸部、E. S. S. 美術研究会、マルクス主義研究会、社会科学研究会、エスペラ  
ント研究会、詩の会、読書同好会、第3文明研究会、医療問題研究会、時事問題研究会、自然科  
学研究会、法社会学研究会、キリスト者の会、禅の会、演劇部、サイコドラマ研究会、将棋  
部、囲碁部、釣部、茶道部、華道部、かるた同好会、マジックサークル、献血クラブ、グラ  
フィックメディアアートクラブ、心理学研究会、ペット愛好会、落語研究会、喰始、旅の会、さ  
すらいの会、ガラパゴス、探検部、ユースホステルクラブ、マンガ研究会、S. F. 研究会、T  
定規、文化系サークル協議会

#### 体育系サークル（50サークル）

昭和54年3月1日現在

バドミントン部、ハンドボール部、準硬式野球部、硬式野球部、ラグビー部、男子バレー部、  
女子バレー部、男子バスケット部、女子バスケット部、サッカー部、卓球部、アメリカンフ  
ットボール部、ゴルフ同好会、硬式庭球部、軟式庭球部、卓球同好会、体操部、陸上競技部、剣  
道部、空手部、弓道部、柔道部、正道術、合気道部、水泳部、スケート部、スキー部、オリ  
エンテーリング部、徒歩旅行部、キャンピングツアークラブ、山岳部、自動車部、ヨット部、漕  
艇部、サイクリング部、馬術部、ライフル射撃部、モダンダンス、少林寺拳法部、あるこ  
う会、民族舞踊研究会、舞踏研究会、フリスビーーズ、くたびれもうけ、二輪愛好会、サー  
フイングクラブ、球技研究会、フォーシーズンオブカーライフ、体育会、応援団

### 5. 学生の遭難事故

課外活動が盛んに行われる反面、不注意に起因するもの、不可抗力によるものの違  
いはあっても、遭難事故は跡を絶たない。学業半ばで命をおとした悲しい記録を拾っ

て以下に綴る。

①教育学部、工学部学生の山岳部員2名、昭和32年3月13日白馬岳で雪崩により遭難し行方不明となった。3次にわたる捜索隊派遣ののち、同年5月20、22日にそれぞれ遺体となって発見された。

②昭和33年6月29日、ヨット部夏季合宿のため、千葉港から、ディンギー4隻、スナイプ2隻で勝山に向けて出発、途中天候悪化のため引返しているところ、強風と三角波によりてんぷく、防波堤に打ちつけられた。この事故によって工学部1年生1名が死亡した。

以上、事故続発を憂慮した大学は、予防対策として、父兄を交えた山岳部員、ヨット部員との連絡、懇談を重ねた。

③昭和34年3月10日、教育学部学生2名、谷川岳で登山中、転落死亡した。

④北アルプス後立山で、春山合宿中の山岳部員の医学部学生4名は、昭和45年3月6日、猛吹雪により遭難、1名死亡、他の3名も負傷、凍傷を負った。

⑤昭和49年7月28日未明、新潟県妙高の焼山で大噴火があった。たまたま同地を登山のため訪れていた園芸学部3年生の探検部員2名、徒歩旅行部員1名は、火山弾の直撃にあい全員死亡した。捜索隊の遺体収容作業は、現地が火山活動中で危険な状況であったため難航したが、8月3日に至り終了した。

## 6. 学生運動

千葉大学発足以来の学生運動を概観するとき、いくつかの峰があり谷がある。これらの起伏は、多くの他の大学と同様に、全学連の中央の取組んだものと密接に連動したものが多くことに気付く。

昭和29年頃から始まった原水爆実験反対の運動、一方では国内政治に向けた教育3法案（新教育委員会法、新教科書法、教育公務員特例法）、国鉄運賃値上げ、勤務評定、警職法改正に対するいずれも反対運動が、昭和34年頃にかけて、千葉大学キャンパスの内外で続けられた。

昭和34年から翌年にかけていわゆる60年安保闘争は、30年代に特記される千葉大学学生運動の断面であった。昭和35年4月から国会請願デモが始まり、学内集会、デモの後で国会へ向かうといった方式が繰返された。大学の告示、説得に拘らず、授業は中止されたりした変則な状況が6月半ば過ぎまで現出した。この間、6月15日の国会デモ中に起きた衝突事件で、千葉大学学生20名が逮捕され5名が負傷した。

### 第3節 学寮・厚生福利

マレーシアの留学生チュア・スイ・リンの復学問題がおこったのは昭和40年である。

昭和43年から44年にわたる全国の大学を巻きこんだいわゆる大学紛争の嵐に千葉大学も例外ではなかった。

西千葉地区においては、工業短期大学部における自衛官通入学問題、学長選挙問題が、またこれと並行した形で亥鼻地区においては医学部の登録医制度をめぐる同教授会と医学部自治会との葛藤が昭和44年12月まで続いた。

昭和49年、公害問題を取りあげた運動が2月から4月にかけて続けられた。また、同年5月、大学管理法案に反対する集会在、学内外で行われた。それと並行して、M P I（モーズレイ性格検査）一学生相談に反対する運動がとりあげられ、M P I粉砕、反公害、部落解放、防衛医大解体の運動が相互に関連するものとして学生運動のテーマとなった。

その後、昭和50年から翌51年にかけて国立大学学費値上げ阻止に向けての運動があった。

以上、千葉大学の学生運動の骨子をのべるにとどめ、詳細については、総編の記述に譲る。

## 第3節 学寮・厚生福利

### 1. 学 寮

#### (1) 新制大学発足当初の学寮

旧制諸学校が保有していた学寮を引き継いだもので、その多くは旧軍隊の木造兵舎を転用した老朽施設であった。昭和26年4月1日千葉大学学寮規程が制定され、学寮は各学部置くことができる、学寮の主管は当該学部長があたるとし、学部長の委嘱した顧問が学寮生活に対し随時適切な助言をすることとなっていた（昭和39.6.27現行学寮規程の制定に伴い廃止）。当時の学寮は次のとおりである。

教育学部	猪 丘 寮	男 子	110名
教育学部分校	拓 心 寮	男 子	192名
同	上 睦 寮	女 子	114名